

玉結小抄

七







源氏物語玉のをとせ七巻

末摘よりけぎくはきくよ又ことと思おもふうそなは
しものこがにまがふ一はこばうで海考へ出つるまごもれわか
まらうぐうかーこと虫つまおきつるかきり海今よりいつきて
いそつねががつぐききききんといをやくのほねぞとそた部が
そころるすたえまーがうーかかかゆーぐーいひやうーおかくれ
どいぐはきむらぐえ五巻かものきおちひてえそ人さるん
してほねぞとえよかーそぞ。

末摘花巻

鳥羽大輔

三の巻

此はまごむらりとのこひていづとれみそと

○玉をさうせ

うとむすまきううりきさういづまねる御今より考ふおし進も孝悌
親王女に子あて未揃ひ君にせうとのやくすしりこちをねむむとめ女
令婦がすきいふ父君の侍を里あしといひく下に父の大補の志を
わうあそ任ちうつちをうけつといふに未揃ひと見見お好まばいどいふ
おも任べき人なるんじもい見おわういむいわうおまむとをさあとも
へきういなきおわういむや又令婦が侍階あおありあも此縁およ
ふしおるべし中物いびもありあゆあういむいあべきいむお
ちとを何ともいひていふ父君の侍を里あしけうういふといふ
ふまおやがしこいむちあみこのきくい出さるはその父君のい父の常
階あといふをわういあしり又下ふ令婦が原氏あといふあ

妹さるるいづつあふ父君あもかへあするなんいさざりてい
けりも未揃ひ女にせうとねるあといふあし他人あうむ
うい人のあびる女妹さるるい父あといふあまきいあといひ女
いねとがかくあといふべきあういむいむいむいむいむいむいむい
ういむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい
あきさういむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい
うこの御師の志のいねるういむいむいむいむいむいむいむいむい
もかの志あもいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい
あしむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい
るきも又いふあや

父君はむかし 曰 ことごとく父宮といふ説をいふきむかひし。結末は
日きまゝなるがごとし。又父を父君といふて終へ。まゐれをまゝとみ
こころいふ例なるや。

おもきこころか かひく こころの功也。こころがゆがらふおぢき。其の初のもつ。
こころかよひし。

こころとむかひしむかひ 日 結末は琵琶をむくき。こころとむかひしといふ
え。そのゆがらむかひも。用ふるまひ。こころ異し。後まふむかひをむかひと
つこころ結をむかひし。ゆかひもむかひとつこころやうむかひ。

まふかよひしむかひし 十のむかひ 結末は。こころかよひといふゆがらむかひのつこ
ひがぬ。結末なる。むかひもやうし。漢文より。豈といふがや。

まふかよひしむかひし 十のむかひ 結末は。こころかよひといふゆがらむかひのつこ
ひがぬ。結末なる。むかひもやうし。漢文より。豈といふがや。

はれのとこどど 十のむかひ 是れのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。
まふかよひしむかひし。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。
こころかよひしむかひし。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。

こころかよひしむかひし 十九のむかひ 結末中より。かよひしむかひも。ぬかひも。
こころかよひしむかひし。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。
かよひしむかひし。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。
こころかよひしむかひし。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。
えいこよひしむかひし。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。はれのとこどど。

申に好ううちね 十七のひ
見あひてはうりてくねーまのまきわらうし。ほむがうし。決ま
ぬあわてもさるべー。

多禮やうらうら 日 ぬりぬみづうねし。口の匂。控うさまねぶるし。ふも控
とつあまもさるべー。けぬ。ま。平なといつ。ハ。控を。後この控もさる
かこし。

んねまふいとまき 廿のひ 孫まふいつがぶし。

うへをみうちぎねんあし 廿一のひ 松冊ふお日たつわどふおきさせ

あひく。心井ねちねえきし。みし。みし。まわらうを控ひて。く
らせね。橋のぬるわー。おね乃ほぞね。夕なをねども。の。さ。さ。さ。さ。め

つとをく。くり。う。さ。も。ぬ。得。未。ね。す。の。や。ふ。も。す。ぬ。控。う。考。あ。べ。ー。

かみねものうさか 廿二のひ 一のうきハ。信ふふい。や。さ。う。り。あ。さ。う。て。

う。ハ。な。ぶ。ぐ。さ。め。む。と。ハ。あ。せ。と。も。ん。ふ。も。う。あ。つ。と。い。や。あ。し。

う。と。つ。り。ふ。ね。り。や。ー。あ。ま。ー 廿三のひ 催る樂心代。ち。伊加。尔。世。元。乃

上。ふ。和。礼。平。保。之。止。伊。不。と。い。ふ。句。あり。されを。あ。を。り。と。い。ふ。い。ふ。せ。む。る

つ。や。あ。ま。ま。ー。い。あ。と。ん。づ。き。ね。く。あ。が。せ。ね。あ。べ。ー。

う。や。と。ね。ま。 廿四のひ ぬし。人。と。の。う。へ。を。く。べ。さ。ふ。人。の。ま。さ。れ。る。う。も。ね

く。あ。く。ゆ。き。る。を。い。あ。何。じ。う。ハ。あ。も。人。も。さ。と。ふ。さ。が。の。ん。ぐ。ー。ま

ま。ご。り。河。の。つ。ま。か。て。も。ん。ね。べ。ー。宿。本。先。お。そ。と。も。日。が。ま。ま。あ。あ。や。う

ふ。う。う。や。と。ね。く。あ。と。う。う。じ。べ。く。り。る。か。ー。

花宴を

是のふけな花宴の宴はまはは唐を唐をききとくは花宴の宴はまはは
まら花の宴と云ふなり。

道のそ ニのひり 上お文まはるすなりまらふまきといひは花宴の宴はまはは
まら花の宴と云ふなり。

まら花の宴と云ふなり 四のひり け大くは原氏を花宴を唐をききとくは花宴の宴はまはは

大ら花宴の人あし見とくはまら花宴の宴はまはは花宴の宴はまはは
まら花の宴と云ふなり。

この口 日 業事の日記ふほそまら花宴の宴はまはは花宴の宴はまはは
まら花の宴と云ふなり。

よの中はあやまら 五のひり 花宴中の女乃花宴の宴はまはは花宴の宴はまはは

まら花の宴と云ふなり 六のひり 花宴中の女乃花宴の宴はまはは花宴の宴はまはは

まら花の宴と云ふなり 七のひり 花宴中の女乃花宴の宴はまはは花宴の宴はまはは

まら花の宴と云ふなり 八のひり 花宴中の女乃花宴の宴はまはは花宴の宴はまはは

まら花の宴と云ふなり 九のひり 花宴中の女乃花宴の宴はまはは花宴の宴はまはは

まら花の宴と云ふなり

女みこころねども 十一の節 みことつらひ。娘まうちねごとく。笑ゆせ
ぞも。ころねやうをよあふ。ねをよち片のねむとせ。うちねるまこと
そ笑えとれ。保氏もねね姉妹とて。いふねまあどやうねるべ。
何ゆあうと 十二の節 けりつるべ。ちりてふ。あしねね。

葵巻

うらうらとさふ 三の節 さいまの涙なるべ。
そまあどいふ 四の節 けりつるべ。ちりてふ。あしねね。
てんねへ。保氏の心をなまし。きねるあどいふ。こころより
と。はうもつらねさぬまじ。あどいふ。保の^{オカ}あしねね。
つらりつるまね 五の節 ちりつるまね。保の心をなまし。きねるあどいふ。こころより

かひるまこころがせ。おやうらうらとさふまじ。
かくねるどいふ 七の節 かくねるかくねるまじ。
むとまじ 八の節 人おねひて。案らう。むとまじ。保の女房ねどの
案ら車じ。花もいふ。まじ。人おねひて。いふまじ。
いふまじ 九の節 う。ハ。ま。の。涙。なるべ。
殿上のぞうねどのまじ 十の節 のまじ。の涙なるべ。
うらうらとさふ 十一の節 けりつるべ。ちりてふ。あしねね。
まじ 十二の節 のまじ。の涙なるべ。
のまじ 十三の節 けりつるべ。ちりてふ。あしねね。
まじ 十四の節 のまじ。の涙なるべ。

よきこふりできしるねど 十五のぢり け下ふぞもどきべー。

まそでゆりうき 十五のぢり け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

しうとつあじ。よふおくあふをむだばそつあじ。

あつねりまてぬまば 十五のぢり け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

ぬよし。

ゆまりみちて 十五のぢり 何海ふ動音。振まふき。今考ふ。振ま

あつまふ。十五のぢり。け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

三とつりて。ゆまりとらふみとらふ。け下ふぞもどきべー。

多く動字。音字。け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

もつらときしり。

かつそとねまき 十五のぢり け下ふぞもどきべー。

人むらり 十五のぢり け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

まらばあが 十五のぢり け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

かつまが 十五のぢり け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

さそとあつまのねまき。け下ふぞもどきべー。

今もえてき 十五のぢり け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

の句ハ。右と集ふ。け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

物。け下ふぞもどきべー。 け下ふぞもどきべー。

もらてくるべきまき。け下ふぞもどきべー。

け下ふぞもどきべー 十五のぢり け下ふぞもどきべー。

とぞあしかりき。新古今集入る古あし。いん人をつまき人。あ
しつらひとく入るし。あもてまいとつらふはあし。あもぞとあ
あふぞとあふぞと。

つちりちんもさく。日。ゆあし。あわよりさる難し。ささうはあし
あわさく。ささうはあし。ささうはあし。

は神もひきをあらしまわす。日。あし。いささく。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。

らうらう。あし。日。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。

あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。

柳卷

いでや 三のひく けいづごあても 倍ふふやとつとつあつひより
ま中ふ 倍きとさきとつり 倍ふのいやりとも 倍ふとつらぬふき
一い やりともさきとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき
よれふとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき
もきめり 倍ふ 三のひく けいづの倍ふのいふとつらぬふき
ふ世さし 又とさきとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき
まはともさきとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき
ともさきとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき
つとつらぬふき

う 柳垣ハニ 日 湖月原院より

八省ふ 土のひく 八省院ハ大極殿の惣構へしうのをも 倍ふのさふ 出車

さよつづきとさきとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき

くうの出ひて 日 けいづの倍ふのいふとつらぬふき

らくぬふとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき

いとまきふ 十のひく 倍ふのいふとつらぬふき

まかふとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき

ま院のさふとつらぬふき けいづの倍ふのいふとつらぬふき

けいづの倍ふのいふとつらぬふき

そのものく袋 十六のひく 倍ふのいふとつらぬふき

先づ〜〜〜しきおも はのひ ねを結ひ〜かごと。正親を足利
つら〜をふ。今又多ふを先づしきし。

こよひもゆ〜 はのひ さまね 兼もま〜ゆ〜お〜

とど〜まいとこよねくも〜ねもす〜ゆ〜ゆ〜
まいつ〜し〜ふこよひも〜ゆ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜 日 か〜ねとハ。兼きお敵を〜ゆ〜返〜ゆ〜ゆ〜

ま〜ま〜ゆ〜 日 か〜ねとハ。兼きお敵を〜ゆ〜返〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 か〜ねとハ。兼きお敵を〜ゆ〜返〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 か〜ねとハ。兼きお敵を〜ゆ〜返〜ゆ〜ゆ〜

ゆりぬき〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

兼き〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜 日 のゆい。今より後生〜ゆ〜ゆ〜。 徳おふか〜ゆ〜ゆ〜

あつさぢお乃々廿のひ 御二白およ色のつしを合きて上ふ所々
いふ中おつひおき波おがしぬしとくつんをたてんべし。

あゆぬまばえ廿 色うらゝい源氏ぶのんのうらるるよし廿三のひ おをり
なるくまうしとまきとつふあしあるべし。ほろもかこもとがり。さうが
ゆらさうがふの糸え。ゆらさうがみさうとつふり流きし。

源氏ぶ人の廿七のひ 此あはるす。振きおつふがおし。
あこがし廿八のひ 本板を。本紫波おきやるおるるおおその使ふ。
源氏ぶ乃おつとつおきお紫を侍しよし。

そつらぢいあつ人の廿十のひ こまはつぢいあつ人のとつらびき文あり。
中あまおきなりておハ皆女房のこまはつぢ地の御お給ふしつ。

あき例々つらぢれをこし。

あ月おきむ廿五のひ 日のをむせぬといハ中あまのげお波をね
きておあし給いてんをさあし給つとつあおハ源氏ぶのこつら
らあしひああそし中あまの御あし給ふさうやそし。あもおあま
とそ。あまのねるおあやんをまよひせし。決るる後うてんたべ
し。お流のこつらあしひさうとつひうやうさうとつらあつら
さそ此あよまあつハ人もまきとあられははのや表ハハ。此世のやこし。
あぢうねの對乃南に廿十のひ あぢうねとよまきるべし。西對乃
あはあまさうしをねとるあお。此は堂のつらよし。湖月本あ
のみあまあつらハ供し。

物々ざれども、まじき事ハとなつてハ、見よといふより、おぼや

そくねき言成りしれども、ハのひ 死なむといふこと

まじく申のめむりおろし ハのひ 事をしむちけひ一日おろしハ

つらば、難波より船出、船へる日の申の時、そとく、来りおハ

難波より、一日おろしおゆるさむお、いづれおひ風をれをそ、

ハまじ、こ日おとい、そつらつらむ、他おゆるさむ、ちやうけつ、つら

おハ、かくべきおわ、いづれおゆるさむ、いづれおゆるさむ、

おどおど、紫衣、人おき、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、そ、

おゆる、雲を、ハのひ 結の、ハ、結を、いづれ、ハのひ 鼓の、かし、

オホイド 大殿おと、穿おの、老の、と、おも ハのひ け二つの、おと、ハ、大殿と、穿お、

おとと、並べて、いふ、ハ、つらば、上、おハ、二條院、入、さ、お、え、お、並べて、大

敷、お、も、し、下、おハ、そ、大殿へ、の、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、ハのひ 此、下、お、文、湖、月、の、お、ハ、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、の、お、ハ、お、お、お、の、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、ハのひ 人、お、お、道、の、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、ハのひ 東、お、お、の、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、ハのひ ま、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

—がらも亦もといふこと又もてからしむるごとく—といふぞ。もてからし
つゝといふもはみづうへにゆるりたるなり。

あはれなるを 曰 けり。三四一二又と句を流ししんたべ。

あはれなるを 曰 二の句。海人といふをて。教ふべし。指きもといふ。

大敵のあはれを 曰 大敵のと切しよむべし。大敵よりのあはれなり。

あはれなるを といふこと。

あはれなるを 結句。いふ人といふべきをいふこといふことなり。

あはれなるを といふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。

いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。

あはれなるを。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。

はらりあはれをいふ 曰 海のおと。弄花細流はらり。いふこと。

原氏志のあはれをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

あはれなるをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

弄花細流のあはれをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

原氏志のあはれをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

あはれなるをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

あはれなるをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

あはれなるをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

あはれなるをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

あはれなるをいふ 曰 結句。あはれをいふこと。あはれをいふこと。

へ 體よりを。近きかど。もろく。女玉の後。若く。琴を。むく。人。まねく。ふ
きて。ぶく。う。ん。を。や。つ。し。上。ま。と。あ。ふ。き。も。つ。と。ど。そ。い。ま。づ。ふ。む。く。と
い。ふ。く。り。ふ。こ。も。つ。く。と。さ。う。ふ。た。の。上。も。は。是。も。く。ふ。も。よ。る。べ。く。う。孫。は。
さ。ら。も。が。く。れ。と。か。く。い。う。へ。を。う。か。あ。き。つ。ら。き。お。き。ま。さ。ぶ。じ。
こ。ま。や。れ。き。さ。ふ。き。う。 其のひく 徳政の流いづも。その語か。う。あ。ひ。が。さ
し。様。う。考。ふ。べき。こと。じ。

い。で。う。ら。ち。が。て。は。う。く 四十一のひく 孫き。ふ。い。う。で。う。ハ。乃。下。あ。て。句。を。切。べ。く
と。ま。で。い。い。せ。ど。句。を。切。て。と。様。此。所。語。の。を。ど。い。で。う。ハ。の。下。ふ。り。あ
ら。ど。と。ま。で。ま。べ。く。孫。も。お。べ。く。い。で。う。ハ。と。あ。ひ。う。く。一。あ。あ。じ。
あ。い。づ。く。は。う。く 四十二のひく されも。さ。て。ハ。下。句。は。さ。と。か。ま。あ。を。さ。ぶ。る。れ。ど。う

あ。く。と。う。く。い。は。く。と。重。政。ど。り。へ。く。け。て。い。た。べ。く。ま。よ。あ。と。い。ふ。ハ。か
ら。ど。月。ハ。ま。ま。お。お。う。く。づ。れ。を。じ。ほ。の。さ。お。て。ハ。ど。く。い。は。ま。お。り
う。お。み。だ。り。お。さ。り。ハ。な。う。月。も。さ。あ。と。ゆ。く。お。さ。る。あ。ふ。や。あ。ふ。あ。も。と。い。ふ。こ
あ。あ。の。ま。さ。う。く 月 け。あ。あ。ま。ハ。源。氏。の。孫。だ。の。友。と。い。は。れ。う。り。
二。の。句。ハ。ま。ま。お。お。う。く。し。ほ。の。さ。お。ふ。も。ら。う。と。ふ。も。き。も。お。う。く。い。あ。も
ハ。あ。あ。と。り。と。お。つ。ふ。又。ほ。あ。も。ま。て。あ。も。ま。き。じ。か。く。の。お。さ。く。と。い。は。れ。ば。
し。の。と。く。と。い。は。く。と。い。は。れ。ど。ほ。の。と。く。と。い。は。れ。ハ。口。の。う。か。う。と。く。又。ま。ま。は。
い。ふ。お。く。孫。あ。あ。と。 四十三のひく ほ。あ。あ。や。り。お。う。く。と。あ。あ。も。く。これ。も。
源。氏。の。の。ま。ま。い。う。く。て。源。氏。を。い。ふ。お。く。孫。あ。あ。と。い。ひ。て。

ふいに... 程よくかむかべー

かく老き... 必しもまろく

の... 物の名り... 物

多... 又... 物

かく老き... へ

かひつもの... 貝つ物... 儀式性小貝物と

く... 倉のやうか... 倉

形... 下小人の... 形

し... 此神... 此神

さ... 續日本紀十七の卷宣命... 奈

朕時... 又云... 又云

あ... 神... 神

き... 神... 神

や... 六日七日... 日

上... 己の日... 己

き... へ

あ... 上... 上

そ... 人... 人

八... 後... 後

ふ... 電光の... 電光

わびてせんうらなく悲しとわがせなみづくくねんをえうねきこへいふ
ありふらあふよひまきわの人うきまづかきこへいわがきこし

加まりねくようびき 十のひ ことに入まねやうかめゆるまふほのふ

えをるよりきこへいふ入まぬるうきまをていふ保氏志をえな

とるやうね色は遠く入まぬるうきまをていふ使のちうかめやう

今はいきまきこ 十一のひ 今うらなふたのうらなうきまをていふ

きり今うらなふていふうきまをていふ

いふふ 十二のひ 此何をまきこふもまてまきこふていふ

まわふまきれまきまていふうきまをていふ

い何海ふりまていふうきまをていふ

いみぢりふくし 十三のひ ねがふまふていふ

つる 十四のひ あそこのまきまふていふ

まきまねふも 十五のひ まきまふていふ

アそんじん 十六のひ まきまふていふ

まきまふも 十七のひ まきまふていふ

し 十八のひ まきまふていふ

え 十九のひ まきまふていふ

い 二十のひ まきまふていふ

の 二十一のひ まきまふていふ

あ 二十二のひ まきまふていふ

もやむは位あつてまりて 甲十四のひ ちのハ冬議大將ありて
まを改先して度ハ極大細ふはつゆあり。官をも位といひり。
なげきつて 甲十六のひ ねまふりつて 乙一。ほごともふんぬがさき
ちしとつてハ万葉あうまきあし。又あぢげく島とあひまへとつて
うねこさきあしとあひあり。人まあひやるとつてさうとるくまきん。
みまつて 乙二 ねま
な院ありまありひ 乙三 せん 乙四 宣旨ハ職じ。ちといつてハ院じ。
えうねきまあま 乙五 朔月作説より。 乙六
うのまげ 乙七 乙八 伊あちかくはうあ 乙九 ことし。相壺まふりま
べての 乙十 みやづ 乙十一 ねま 乙十二 ねま 乙十三 ねま 乙十四 ねま 乙十五 ねま 乙十六 ねま 乙十七 ねま 乙十八 ねま 乙十九 ねま 乙二十 ねま

あうらつきの 日 ねまふりて。乳つまはさへあり。
はを 乙二十一 乙二十二 土のひ 乙二十三 何海え。此の法も。一條帝はねまふり
ま 乙二十四 此の式は日記あてもまきれば長和の例といつて 乙二十五 あり。
あ 乙二十六 ねま 乙二十七 乙二十八 ねま 乙二十九 ねま 乙三十 ねま 乙三十一 ねま 乙三十二 ねま 乙三十三 ねま 乙三十四 ねま 乙三十五 ねま 乙三十六 ねま 乙三十七 ねま 乙三十八 ねま 乙三十九 ねま 乙四十 ねま
ま 乙四十一 乙四十二 ねま 乙四十三 ねま 乙四十四 ねま 乙四十五 ねま 乙四十六 ねま 乙四十七 ねま 乙四十八 ねま 乙四十九 ねま 乙五十 ねま
ほの 乙五十一 乙五十二 ねま 乙五十三 ねま 乙五十四 ねま 乙五十五 ねま 乙五十六 ねま 乙五十七 ねま 乙五十八 ねま 乙五十九 ねま 乙六十 ねま
ま 乙六十一 乙六十二 ねま 乙六十三 ねま 乙六十四 ねま 乙六十五 ねま 乙六十六 ねま 乙六十七 ねま 乙六十八 ねま 乙六十九 ねま 乙七十 ねま
ま 乙七十一 乙七十二 ねま 乙七十三 ねま 乙七十四 ねま 乙七十五 ねま 乙七十六 ねま 乙七十七 ねま 乙七十八 ねま 乙七十九 ねま 乙八十 ねま
ま 乙八十一 乙八十二 ねま 乙八十三 ねま 乙八十四 ねま 乙八十五 ねま 乙八十六 ねま 乙八十七 ねま 乙八十八 ねま 乙八十九 ねま 乙九十 ねま
ま 乙九十一 乙九十二 ねま 乙九十三 ねま 乙九十四 ねま 乙九十五 ねま 乙九十六 ねま 乙九十七 ねま 乙九十八 ねま 乙九十九 ねま 乙一百 ねま

利運おどろいてけいけいといふ

河は穢れがたに河じさうごふあり考へ合きてうづうづう

わらひきりべい。傍にむごいし。

け取女の情きよくおどろ

くあしりふきつべい。

ほお原氏のまゝあたまをうらむ

はくぬがやふえい。はくぬがやふえい。はくぬがやふえい。

まては。こんががむらむらといふ。まては。こんががむらむらといふ。

花やふもつし。目おどろくや

はくぬがやふえい。はくぬがやふえい。はくぬがやふえい。

まがぬがやふえい。はくぬがやふえい。はくぬがやふえい。

湖日本志の波をせり

おどろくはくぬがやふえい。

おどろくはくぬがやふえい。おどろくはくぬがやふえい。

おどろくはくぬがやふえい。おどろくはくぬがやふえい。

おどろくはくぬがやふえい。おどろくはくぬがやふえい。

おどろくはくぬがやふえい。おどろくはくぬがやふえい。

おどろくはくぬがやふえい。おどろくはくぬがやふえい。

おどろくはくぬがやふえい。おどろくはくぬがやふえい。

おどろくはくぬがやふえい。おどろくはくぬがやふえい。

てきて見かくし 赤のひき 足まわりききる河原にてあひて見ぬまゝ
わくねをなかり

いそけあなむねあもつう日 袴を着ざれば腰より下はまぬらぶどけ
ねくして初く見ゆるし ちもつうとハ腰をいつとつらふとぐり腰より下
着せらる

いふししてうあどき二のひき 本まわちねての後まるとつらきとハ近き前
よつりて後ま一人のつとねくいとふさふ用いへるおちりり
あひまゝあくねさび日 ちハどの得し

又みこしち大長ねちちとつらどき三のひき ちむいなるとハ今ま
むくしてちい居るおちさいつとあておちりねおちちさのちちむい

お方の種姓乃ち親王大長のお女なりおちりてむきつとてまてまて
て乃ちハちむいやむてねま親王大長のお女の腹の子といふとそれ
ち今まむいなるおのちおちりる腹の子といふ昔の人もあひおちり
父のちてねもまむいなるお女ち子ねどあちえちつとねおぞと
つとてハ ちふげあをんねぐにやうおしつとて流のつと得まると
ちまいつとねとつとくちらとちとちりまてちも得まるとねと
ちまいつとねとつとくちらとちとちりまてちも得まるとねと
ちあひをえりまハのひき ち二白ハ係氏とちねる上とち係氏ち中おちれと
おねねるねとつとちとちまてちもねるおハ二本なれち係氏とちね
る上とちちりてつとちちちねとちかおのちとち一つおちちちびあてち

きりーかゝ祢 世のひく んふうねえぬーい

あふとちてーがねと 日 上ふはんあふぐりのあそびまぐーいーがね

とつふ即こもろし。 傍に隠道のすふつらひいーきむがーい

きふどの字の衍字をいつふすておさるーい。又どの下ふおもどね

どいふとのあふるりーい。これと隠道のすふとんねる。むがーい

ふはるええー 日 むやきまーい。すあがきーい。ねまおまぎれてけ

んとあふぐりねあそびまぐも。あふまーおえまぐ。君のさうぐーい

やねがさんとーい。君のはーい。あふあそびまぐーい。これ

又六條法造に給ふべき下がまーい。は。隠道のすふつまーい。い

ーにね遠し。上ふ時。おはまきるおあつあつ。ねどつらつ。つま

考へてはるべー。隠道乃すはうあふねく。ゆらわうい。

御教書

いふふあふまふ 日 いふあふ。いふあふまふーい。はるい。

なごーあふま 日 六のひ。三のひ。あふま。あふま。あふま。

こまどの風 日 風のす。あふま。風。乾方の風をいふ。昔俗説。

みまぎあふま 日 あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。

このあふま。

あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。

あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。

此相済大く。あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。あふま。

虫くりけきの下向も、くさ決の河あそ月のまゝあそんねべー。

かめき 日 まつもむがーちやんやとかめきねもーくさひちりじ。お

流ハどおしといふ河りかまらぶとまてまやくのほごも語のいまあひて

ゆきをねごふんまつまら流むいともちそうねこのまじ。

おつくりきほよきへお ハのく 原氏名のをうらるおらのもおつまてあそ

もさうりハさやーやんこのまもまら。あそりのまへふおつくりきよ

いじといふじあまきーハそれよつきてもかまらーくさあそーちあ

とじ。ほごもけりーくさあそあそるまら。

人のほごまら 日 ちやんや。かめりのまらといふまらハ例の紫式部。あ乃卑

下ま下ふこまていつくほじ。

くさくまらまらて 十五のひ ちやんや中まおまらー日いさくまらーとけ。

と何じ河まらいさくまらーくさあそあそいさうとハあそよーくさあ

ねり。あまの流むがまら。

まのふくあとおおまほまらまら 日 け流。まあまのまらおまらてまらまみ

ませみまらせおあうりちるまかのまらハ。柏木あまらうくさあそ

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

いけあまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

いひーくまら 十五のひ 弄花の流まらー。いさあまらまら。

あつりーくまら 十六のひ かまらまらーハ人のまらまらまらまら

かやうと人のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

おがーちりあーかを 十のひ 人のいふおまじとハ今までもまてよくぬ
ぬいぬへをじ。

まろ 十のひ 髪のはしりいしぬまてまぢらも口もむしり
なまらささい。

おとけりあー 日 おつりりるまてけりありるもそのまぢ
うりりしえやじ。 猪ま乃説あめりくさく。

ぬくつまがまじ 十のひ 俗まおまじりよおまてまろばまてま
まじいおまじ。 力まじりるうらちとつおまてまぢ。

今もつみーく 十のひ 上おまおまてといつハおまぢりま
まぢのま今もまぢまぢまぢまぢまてかまておまてまぢ。

はふま中てりまてつらうまぢり。

ままのまぢ

まぢらぢらまぢ 十のひ ままのままおまぢやうまぢまぢ。

おひつまま まひ ま 著しえまぢまておまてまぢまて
まのまてまぢまておまままておまてまぢ。

おろま ハのひ ま ぬまにぬま 十のひ おまま。 ぼまてまぢまて
かくがりま 日 ままてまぢまてままてまぢまてまぢ。

ま官位をいつまてかくがりまてまて人のまままぢまてまぢ
位のまままてまてまてまてまてまの五障まてまつのまてま
まてまてま官位まてまてまてまてまてまてまてまて。

みどりけうまやうか 四十一のひ みどりけをハ日ぎ又云女の嫁り。
さうけをふされるうさきさでふも及ばざるべきう。六位の衣およれ
正とつるはまぬぎまふ嫁もたきをまきさう むふとが六位あ
家こを何のよふハ嫁り一 結む。

つとぎさうふた 日 まづうよおし うつとぎをまきこ。 ほうき
むがこ こつとぎとつふり かなりぞ。

ふまをふえや 日 結りぞ 日 を居居へなり 次の後へ けて ぬべ。
ふまへ とつふ はま とが り。

あふり あふ いな この 日 十五のひ 又書 を云 位り な 結る こ 結こ。
おやく とつ ふ ま び ら う こ 見 べ。

みどりけうまやうか 四十一のひ みどりけをハ日ぎ又云女の嫁り。
さうけをふされるうさきさでふも及ばざるべきう。六位の衣およれ
正とつるはまぬぎまふ嫁もたきをまきさう むふとが六位あ
家こを何のよふハ嫁り一 結む。

つとぎさうふた 日 まづうよおし うつとぎをまきこ。 ほうき
むがこ こつとぎとつふり かなりぞ。

ふまをふえや 日 結りぞ 日 を居居へなり 次の後へ けて ぬべ。
ふまへ とつふ はま とが り。

あふり あふ いな この 日 十五のひ 又書 を云 位り な 結る こ 結こ。
おやく とつ ふ ま び ら う こ 見 べ。

此の九重波を 四八のひり 旧中を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 五十二のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 五十三のひり 濃くまはうりてなり。

此の九重波を

此の九重波を 五十四のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 五十五のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 五十六のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 五十七のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 五十八のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 五十九のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十一のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十二のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十三のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十四のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十五のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十六のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十七のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十八のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を 六十九のひり 此の九重波を恨み強きまはうりてなり。

此の九重波を

〇四十二

かぶらぬれとすいぢや 日 乃申おのわきうさあつとくせむぢいおと上
いふまゝのちものさきといつてけしきなり。

せふかき

かむざらう 口のひく 和名抄小朱櫻 迹波佐久良とつらハ加字は後
もかてかむぢらうし。かむざらうといふはけふもさきさき
ありけふもさきといふと考ふべし。

くしへかぬる 九のひく 結き考ぬべし。あはれおもしろくびて。まはるの
日ふしして。くねへいふやうなるはいつり。船りの親を。あそびをせむし
まわりふらぬ。いふと考ふべし。 十七のひく こと上の業上のうを橋の
とまもと合さしといふ。他がどふともいふべし。 湖月がどと

の二かどきまのり

うらさきとくおや 十のひく けね。船きといふより。ねし。あふ。うら
つきとくおや。いづれ。おるべし。せふは。翌船。ふさふ。さく。おる。
ふおら。まき。うら。は。ま。お。衣。指。の。ま。う。き。い。ま。い。し。
つづく。べ。乃。ほ。そ。り。の。む。よ 十のひく け。信。ん。ね。が。く。よ。も。ね。ま。ら。ね。

行幸を

さきやう船のゆもせねし 二のひく 原氏志のま着るふをさきひし。んふ。酒。大
は。後。ま。結。し。て。中。原。氏。志。の。ま。着。る。ふ。を。さ。き。ひ。し。ん。ふ。酒。大
船。り。を。こ。の。ち。か。ん。と。し。

よしふさき 六のひく 大原聖り幸ハ今日をめでといふは。ま。さ。ふ。う。ね

だ。既へ延長六年は休むを以て、みゆきはわさるゝにあはじ。
 物々小此度の行幸は、延長のおつて、るゝはむごころじ。
 よぶき〜七のち〜 俗多ふしむい〜ねといふとあはしけついつごねると。
 みやま〜じ。ほらね〜がなり。
 むら〜ねあべきほどねくぬと。日。色。ハ。ま。の。張。ま。へ〜。
 うぢ〜〜〜ハのい〜 今ハ氏じ。ま。の。打。小。あ。は。じ。
 よ〜き〜〜カのち〜 今ハ出。ひ。も。〜むつ〜うねる。あ。ま。ね。り。と。じ。
 い〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜かひ。あ。ま。〜むね。は。び。〜
 け〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 け〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜

まら〜り〜〜日。一。よ。び。ま。の。あ。ま。〜むね。は。び。〜
 て〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 け〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 まら〜り〜〜日。一。よ。び。ま。の。あ。ま。〜むね。は。び。〜
 て〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 け〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 まら〜り〜〜日。一。よ。び。ま。の。あ。ま。〜むね。は。び。〜
 て〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 け〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 まら〜り〜〜日。一。よ。び。ま。の。あ。ま。〜むね。は。び。〜
 て〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜
 け〜〜〜〜ハのい〜 今ハハ。〜〜〜あ。ま。〜むね。は。び。〜

道にぞこしりて。 橋を流むがごとし。

あいにせふらう。 十三のひ。 まぐさの橋あやむ。

は使えんぞう。 十六のひ。 橋をよらう。 路のほみるはらう。

あふもてう。 十七のひ。 けしむとこがらう。 日影りむくがむそれが。

おのおのの道にひきこむ。 日影をまきゆるにせんうとせしとこし。

よるこいづうそをぬらう。 天ふまづうりあやむらう。 げだ。

いりやうのほらう。 けしむとこがらう。 まれがらう。 まをぬらう。

おしんくり後へとこし。

